

2006年1月～

人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会

〒567-0883 茨木市大手町 7-26

FAX 072-626-6519

E-mail yoshihara@gold.ocn.ne.jp

“子どもを守る”

2006年1月早々、今年こそはと思いながらも正月から挫折することが多いこのごろだが、相変わらず子どもにとっては恐怖の年明けとなった。

人為的人災は何をかいわんやであるが、目に見えない細菌やウイルスには医学関係者が常時非常態勢でなければならない。にもかかわらず、ノロウイルスが原因となる感染性胃腸炎が過去10年で最大級の規模で流行しながら新年を迎えた。(全国約三千の小児科からの報告)

鳥インフルエンザはインドネシア・トルコ・イスラエル・中国で死者が出た。私たち人間歯科学研究会の最も恐れていた結果が次第に拡がってきた。小児歯科診療では特に感染に注意を払わねばならない。

“ようやく口と身体の健康を考えるイベントが開催される”

歯の病気も歯周や口腔粘膜の疾患も原因が細菌やウイルスであることの認識が高まってきた。人から人へ感染の大元が口であるとする、まず口腔内の健康が大切で、この健康状態が身体に及ぼす影響は古くから「病巣感染」と称して歯科学の中では重要なポイントとなっていた。

最近では脳出血や心臓疾患の手術で、口腔内細菌、特に歯周病菌が発見されたことで口腔内環境が全身の環境に影響を及ぼすことが証明され、歯科保健医療を目指している者にとっては、口腔内唾液検査の重要性が改めて見直される時がきた。

大阪市北区のリーガロイヤルホテルで開かれた「口腔保健から全身の調和を目指して」と題したイベントには大きな意義がある。サンスター歯科保健振興財団の主催であるが、小児歯科学会が時代を察知して行うべきであったのではないか。その時には人間歯科学研究会も具体的なデータを明示して大いに協力させていただけたのだが・・・。

“歯ブラシで脳梗塞や心筋梗塞を予知できるか”

人は老齢化するにつれて小児化するとさえいわれる。小児歯科をきわめると、必然的に高齢者が来院するようになる。小児義歯ならぬ高齢義歯が増えてくる。小児と違った頑固さがあるから難しい。

歯があれば、ブラッシングするにしても、小児と違って無呼吸状態、又は貧脈になったり血中酸素濃度が極度に減少することがある。脳梗塞や心筋梗塞の経験者や疑わしき患者、そして就寝時無呼吸症候群には著しい。（口腔衛生学会地方会に発表の予定）

呼吸停止後は10分で、心停止後は3分で死亡するとされる。脳梗塞は呼吸をされていて、心臓が動いていても1時間放置されると3.6年分老化する（一億二千万個の神経細胞の死）という。それらの原因が歯周病菌だったら、何と恐ろしいことか。また心臓病では、口腔内の歯周病菌が直接血管内に入ったり、筋肉を通して関節部などから血管に入って心臓に到達し病因になるという。古来より「リューマチは心の臓に悪し」といわれた所以はこんなところにあるのかも知れない。

プロフェッショナルケアとセルフケアの研究はまだ始まったばかりである。